

(様式1)

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立八広小学校
校長名	須藤 太郎

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・教科ごとで見ると 学校全体の国語科・算数科、5年生社会科、6年生理科の力が改善した。・着実に話を聞くことができ、自己肯定感の高い児童が多い。日頃の授業が充実しつつあると考えられる。・理科・社会科は4、6年生が良い成績だが、他学年が課題。	<ul style="list-style-type: none">・学年による学力の差に開きが見られる。また、二極化が疑われる教科・学年が見られる。・算数科は着実に学力が定着しているものの、学年によるバラツキが見られ、特に高学年に進むに連れ課題が見られる。・興味・関心や、さらに思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が必要である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・意識調査から先生や家族や友達のささえを受け、規範意識があると感じる児童が多い。・「学級の規範意識・絆」「家族・友達・先生のささえ」「いじめのサイン」が強みである。	<ul style="list-style-type: none">・第5学年は「学習習慣」「充実感と向上心」第6学年は「友達のささえ」「対人ストレス」などが課題である。・東京未来大学との共同研究で培った学習意欲を高める授業を進める必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語科・算数科については、ほぼ全国平均を上回り前年度より向上しつつある。・東京未来大学との共同研究で進めてきた意欲的な学習態度が定着しつつある。・振り返りシートを活用し基礎学力の充実が図られてきつつある。	<ul style="list-style-type: none">・家庭学習力の充実が不可欠であるが、意識調査ではなお低い。・読書の量がやや少ない。・テレビ、ゲームの視聴時間が長く家庭との連携が必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 日常の指導の充実のための取組

①授業展開の改善点を全校体制で検討し、指導に当たる。

ア、校内研究を今まで以上に充実させ、一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、研究成果が日頃の授業実践に生きる「研究の日常化」を実現させる。

イ、低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、振り返りシートを活用し基礎学力の充実を目指す。

②学習形態の多様化を図る。

- ア、問題解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断できる能力の育成に努める。
- イ、各教科の学習において、学習の成果を発表する機会を設定し、楽しさとやりがいを感じながら学習を進められる環境作りに努める。
- ウ、全教科を通して「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表したり、ノートやワークシートの記入の仕方を継続的に指導する。

③全校体制で読書指導の充実を図る。

- ア、学校図書館を整備し、週3日勤務の司書を活用し、読書指導を推進する。
- イ、朝学習での読書活動の定着を図る。
- ウ、地域人材を活用した読み聞かせ活動の充実と読書習慣の定着を図る。

(2) 自主的な学習の推進のための取組

①学習の習慣化を図る。

- ア、朝学習の時間を確保、活用し、基礎的基本的な事項の意図的・計画的な指導の徹底を図る。
- イ、自ら計画し実行できるよう「漢字の読み書き」や「計算」だけでなく家庭学習に対する指導の徹底を図り、アウトプットさせ、その習慣化を図る。
- ウ、放課後補習教室・土曜授業のさらなる充実を図る。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・本校のすべての学年で国語科・社会科・算数科・理科ともに平均正答率を全国平均以上にする。